看護業務の効率化 先進事例アワード2020

特別賞

一般財団法人 潤和リハビリテーション振興財団 **潤和会記念病院**

障がい者ベッドメイキングチーム委託業務の導入



すべての患者に"人間愛"で向き合う



一般財団法人

潤和リハビリテーション振興団 潤和会記念病院



所 在 地 宮崎県宮崎市

従業員数 740名 うち看護職員数:410名(2020年12月1日現在)

病床数 446床 (高度急性期 12床、急性期 152床、回復期 159床、慢性期 123床)

(二次救急病院[緊急告知施設])

入院基本料看護配置

急性期一般病棟入院基本料1

回復期リハビリテーション病棟入院料1

背景 看護職・看護補助職の人員不足による看護業務の煩雑化

- 看護師・看護補助者ともに人員が不足し、特に看護補助者の離職率の高さと、 有効な活用推進ができないことが課題だった。
- 人員不足により、看護師が本来看護補助者等が実施できる業務まで担っていた。

目的

- 看護補助者の人員不足の解消を図る
- 委託業者への業務委譲により、看護職の業務のスリム化・明確化 を図る
- 看護職の本来の業務である「直接ケア」の拡大を図る
- ●障がい者雇用を促進することで、社会・地域へ貢献するとともに 障がい者の社会進出の手助けを担う

取組の経緯

2019年 12月

院内外との調整開始

●導入に際し、障がい者の業務委託先は県で障がい 者雇用を積極的に行っている企業に相談・提案。

●総務人事課、外部委託業者との事前ミーティング。

2020年 1月 委譲する業務内容の打ち合わせ 実技指導後、障がい者就労支援 事務所にて訓練開始

各病棟へ方針、業務内容、 手順書を周知 ●障がい者の訓練を通して、得手・不得手を把握。

●「委託業者ベッドメイキングチームの業務と リネンに関する取り決め事項」「ベッドメイキ ングの業務委託」マニュアルの作成。

●各病棟へは、看護職・看護補助者の業務負担 軽減の目的で導入することを周知。

2月 1~2週 **障がい者ベッドメイキング** チーム導入 ●副看護部長が常時同行し、訓練対象者の動き、各 部署からの意見収集、業務内容の追加修正を行う

●チームが主体となってベッドメイキング業務を 本格稼働。

3月

効果検証、改善点の抽出と変更(マニュアル等の修正) 業務内容の追加、業務の拡大

5月 1~2调

3か月評価、業務内容の見直し

障がい者チームへの委託業務内容

- 院内の有人ベッドを除くほぼ全部の病室に関して、リネン室からのシーツ類の運搬、ベッドメイキング、ベッド周りの清掃、シーツ類の片付けまでを行う。
- 1時間半~2時間で40床程度のベッドメイキングが可能(当初は1つのベッドをメイキングするのに10分かかっていたが、現在では2~3分程度ですんでいる)。
- 急性期病棟では、午前中の退院に合わせてベッドメイキングを行う(計画が大切)。
- ベッドメイキングチームが休みの、年末年始、ゴールデンウイークなどは、看護補助者等がベッドメイキングを実施。



障がい者のフォロー体制

- ✓ 外部業者の者が務めるチームリーダー(健常者)が毎回付き添い、 チーム(約6名)として派遣することで、行き届いた管理を実施。
- ✓ 障がい者によっては、耳が聞こえづらい、声が出しづらいなどの特徴がある。 事前にそれらを把握し、病棟スタッフ等と共有する。
- ✓ 私物は触れないルールとし、退院時の忘れ物等はスタッフが注意している。

■成果:実現した「看護業務の効率化」

1 業務の削減・時間短縮

- ●看護職・看護補助職が行っていたベッドメイキングの時間(週に1回約2時間)を削減できた。
- ●ベッドメイキング業務が無くなったことで、業務がスムーズに遂行できるようになった。

2 労働環境の向上

●時間外労働時間が、全部署で前年比で月100時間程度削減。

3 看護職の身体的負担・精神的負担の軽減

- ●週1回のシーツ交換を盛り込んだ1日の業務計画を意識しないで済むことで精神的負担が軽減した。
- ■取り組み開始後のアンケート調査で、過半数以上の看護職が業務負担が軽減したと回答。



各病棟でのアンケート結果

✓ 病棟によって看護職の取り組みへの受け取り方に違いが見受けられ、導入時に目的や看護職への メリット等をしっかりと説明できているかが重要。 ■ 効果:看護業務効率化によって「もたらされた効果」

1 看護師による患者ケアの充実・患者満足度の向上

- 業務委譲の結果、看護師による直接ケア業務時間、患者・家族への対応時間が増えた。
- ●回復期病棟においては、アクティビティの開催やホームエバー(退院して自宅生活を再開する時に行う自宅への訪問指導や家屋調査)への同行ができるようになった。
- ●障がい者の丁寧な作業により、患者により清潔で綺麗なリネンが提供できるようになった。

2 人員配置の適正化

●ベッドメイキング作業にあたる看護補助者の配置が1回あたり1~2名少なくなった。

3 看護職の満足度向上

●障がい者ベッドメイキングチームの働きぶりを間近で見ることで、看護職・看護補助職の モチベーションの向上につながっている。 ■ 効果:看護業務効率化によって「もたらされた効果」

4 多職種(障がい者)の満足度向上

- ●障がい者自身も「人から頼りにされている」と実感することで、やりがいを感じられ、 笑顔が増え、いきいきとしてくる。社会性も身につく。
- ●看護職、看護補助職、患者からもベッドメイキングがきれいに行われていることに対して 感謝の言葉が聞かれている。
- ●障がい者が今後、一般就労するための訓練としての場の提供ができる。







障がい者チームのさらなる活躍と課題

- 直接ケア以外の部分、環境調整なども障がい者チームを 利用できるのではないか。
- ■ベッドメイキング業務委譲によって削減された時間の使い道に関して、 より有効な活用方法や、スタッフの認識の統一が必要。



これから障がい者への業務委託を進める場合

- ✓ 一番の成功のポイントはスタッフに対する「導入当初の説明」と「動機付け」。取組開始時に、病棟師長からの明確な目的の説明と指示が重要。また、障がい者チームのことをしっかりとスタッフに説明しておけば、患者の「あいさつができない」などの質問に対して、障がい者で耳が聞こえないなどの説明ができる。
- ✓ 障がい者チームのサポートにあたり、リーダーが個別の状況を理解してマネジメントできる等の体制が整っていることが重要。